

静岡大学理学部同窓会会報

NO.20

発行所
静岡大学理学部同窓会
静岡市駿河区大谷836
静岡大学理学部内
054-237-1111(代)
会長 浅野安人

二〇〇五年に思いをこめて

理学部同窓会会長 浅野安人



静岡大学が、平成十六年四月に国立大学法人となつて約一年が経過しようとして



本年度もこの春、新しい卒業生が静岡から離れて各地に散らばろうとしています。いま科学・技術は日々と進歩していますが、これらの基礎を支える担い手として本学部で学んだ皆さんは、どのような時代になろうとも柔軟に対応できる基本・基礎が身につけていないはず。大いに自信を持って巣立って下さい。

理学部同窓会会長 浅野安人
ています。大学のおかれて
いる環境も年々厳しさを増
してあり、大学から同窓会
への期待が高まっています。
この一年間で世界情勢も
大きく変化し、新しい世紀
の目覚めに向つての大きな
うねりを感じるようになって
きました。我々の志す自
然科学の世界においても、
大きな変貌を遂げつつあり
ます。木星の衛星上に探査

機が着陸して新たな発見を
したり、日本の古代史を塗
り替えるような遺跡の発掘
が続いたり、また、三月か
ら開催される愛知万博でマ
ンモスの頭部が展示される
など、興味が尽きることは
ありません。材料・物質の
世界においても、その観察
手段と加工技術が飛躍的な
発展を遂げ、二十世紀末後
半のミクロの世界から、ナ

ノの世界へと接近しようとして
しています。
毎年十一月に科学技術館
「東京北の丸公園」にて
開催されているマイクロマ
シン展も、今年で十六回目
となります。初期には技術
的に開示されているのはサ
ブリミからマイクロン程度
のもでしたが、昨年あたり
からはサブミクロンの領域
の技術も開示され始めてい
ます。

この三十年の間、半導体
テクノロジーの全領域にお
ける進歩は目覚ましいものが
あります。エピタキシャル
成長を例に取ると、私がガ
リウム砒素半導体のエピタ
キシャルの研究開発を手が
けた一九七〇年代の初頭は
〇・一マイクロンオーダーの
エピタキシャル層の制御が
問題でしたが、今では分子
線エピタキシ(MBE)及
び有機金属気相エピタキシ

というものを、私たち大学
人を数える同窓会会員が、
それぞれに幅広い分野で活
躍されています。理学部と
しては会員の皆さんの力を
借りて、より多くの成果に
つなげていきたいと考えて
います。今まで、大学側は
同窓生の動向にあまり関心
を払ってきただけといえま
せん。

製造される主なものに、サ
ブリミクロンの寸法特性を持
つ高速トランジスタ及び超
大型集積回路があります。
テクノロジーがサイエン
スにかなり遅れて追従して
いたのが二十世紀だとする
と、テクノロジーがサイエ
ンスに肉薄してきたのが二
十一世紀かもしれない。

このたび静岡大学理学部
同窓会のHPが新しくなっ
たが、そのきっかけはこう
だ。
残暑もようやくおさま
った頃、同窓会先輩で生物地
球環境科学科の和田秀樹先
生から、「誰か非常勤講師
の口を探している人はいま
せんか?」というメールを
もらった。こういう場合、
理学部教員のネットワーク
を使って情報が流れ、心当
りの学生・卒業生に声が
かかる仕組みである。しか
し、すぐに連絡がつくと
限らない。ましてや卒業生
ならなおさらである。時間
は待つてくれない。連絡が
つかないばかりに、せつか
くのチャンスがふいになり
かねない。こんな時、在校
生や卒業生が気軽に立ち寄
れるHPがあれば、そこに
求人情報を掲示できて便利
だろう。そう考えて、早速
具体化の作業に入った。学
部長の石川先生と同窓会連
絡委員長の伊澤先生も、快
く後押ししてくれた。
実のところ理学部同窓会
のHPはすでにあつたのだ。
そこにアクセスすれば、理
学部同窓会の最近のトピックスや
「同窓会通信」の内容が見
られるようになっていた。
が、求人情報の掲示など、
理学部の同窓生に直接ため
になるような機能は備えて
いなかった。そこで、「同
窓生の役に立つHP」、「同
窓生同士が交流できるHP」
をコンセプトにリニューアル
をはかった。アイディア

同窓生は かけがえのない人的財産である

理学部長 石川勝利

さて、法人化の目的の一
つは、「人材の活用による組
織の活性化」です。そのた
めには、大学と同窓生とは
共有できる視点を持つてお
り、両者間の連携を深める
ことが必要であると私たち
は考えています。多くの知

識、経験や情報を持ち五千
人を数える同窓会会員が、
それぞれに幅広い分野で活
躍されています。理学部と
しては会員の皆さんの力を
借りて、より多くの成果に
つなげていきたいと考えて
います。今まで、大学側は
同窓生の動向にあまり関心
を払ってきただけといえま
せん。
在学生に対しても、同窓生
を紹介し相互に交流する場
をつくることをしませんでした。
いま、同窓生も大学の
構成員であるという立場
から、教育は卒業後のケア
も伴ってはじめて完成する

を絞るに絞る、いろいろと試
行した末に、「静岡大学理
学部同窓会のHP」が新し
くアップしたのは、この二
月のことだ。
新しいHPのトップペー
ジには、トピックスの記事
があり、たとえば、定年退
職する教授の最終講義の案
内があつたりする。「学部
長メッセージ」、「会長メッ
セージ」と続き、「会員の
皆様へ」に行くと、そこに
は、「同窓会会報」、「求人
情報」、「就職アドバイザー
」、「住所変更届」、「会員
名簿発行・頒布」、「会員
からのメッセージ」の項目が
用意されていて、見たい情
報を見ることが出来る。後
輩を雇いたい・勧誘したい
という先輩からのメッセー
ジは、「求人情報」に、後
輩に就職のアドバイスをし
たいという人のメッセージ
は「就職アドバイザー」
に掲載する。会員からのメ
ッセージでは、HPに対
する意見や要望、クラス会
の呼びかけとか、近況報告
その他なんでも、同窓会会
員(在校生も卒業生も)か
らのメッセージを掲載する。
同窓生同士の楽しい交流の
場になればと願っている。
このHPはまだできたば
かりで、これから進化をし
ていくのだが、それには、
同窓生からの暖かい励まし
と積極的な参加が不可欠だ。
毎日でもHPに立ち寄って、
気軽にコメントなどを送っ
ていただければ、と切に願
っている。最後に、HPの
アドレスは、
http://www.shizuoka.ac.jp/~ngaku/alumni/index.html
ご意見や原稿の送り先は、
social@ipc.shizuoka.ac.jp
どうぞ、よろしく。

静岡大学
理学部同窓会の
HPが
新しくなった
同窓会連絡委員
瓜谷眞裕

地球科学教室のAO入試

和田 秀 樹

一九九六年(平成八年)四月、理工学研究科が発足して、大学院博士課程が新設、同時に、それまでの生物学科と地球科学科が合体して、生物地球環境科学科と名称を変えてほぼ一〇年。この間、新学科は、地球物質科学、地球生物圏進化科学、生物機能科学という三つの大講座の看板を開いて、真ん中の大講座では、生物と地球の進化のハートモーターを世に売り出してきた。はつきりとした生物は、地球にしか認められないのも現実で、人類を含む生物の過去、現在、未来は、いつであつても、誰であつても魅力的な知りたい対象だ。すべての科学研究分野に共通していることは、あることを突き詰めていくと幾らでも分らないことが増え続け、それを追求していくとどんど



ある日の役員会風景

静岡大学理学部同窓会会計報告

一般会計現金口座 2002年会計報告		平成14年度1/1 2003.4.1現在
収入の部		
前年度より繰越	9,630,094	2002.4.1~2003.3.31
終身会費	1,971,000	
名簿	3,000	
雑収入	48,000	
利息	12	
収入の部計	11,652,106	
支出の部		
ラベル貼り・郵送料	344,610	会報郵送料
印刷代	192,780	会報・封筒
事務用品	0	
什器備品代	176,371	PC代金
会議費	0	
慶弔費	30,000	卒業式祝賀会
手数料	18,955	
事務取扱手数料	100,000	静岡理学部
特別講座費用	200,000	静岡理学部
彫刻制作費	4,310,000	土台・移設・彫刻・他
支出の部計	5,372,716	
差引残高	6,279,390	

一般会計現金口座 2003年会計報告		平成15年度1/1 2004.4.1現在
収入の部		
前年度より繰越	6,279,390	2002.4.1~2003.31
終身会費	2,130,000	
名簿	0	
雑収入	0	
利息	22	
収入の部計	8,409,412	
支出の部		
郵送料	522,194	会報郵送料・住所確認
印刷代	0	
事務用品	78,718	
什器備品代	124,509	PC代金
会議費	38,102	
慶弔費	30,000	卒業式祝賀会
手数料	21,770	
事務取扱手数料	1,186,440	同窓会名簿作成他
雑支出	10,000	会費払い戻し
コンサート費用	600,000	静岡理学部
彫刻制作費	1,000,000	彫刻費用
支出の部計	3,611,733	
差引残高	4,797,679	

試という入学者選抜を取り入れた。三日間もかけて受験生に野外での地球の作る自然の見方を手ほどきしながら、観察しその結果をまとめたりする作業をして適性を調べたうえで入学させるわけだ。殆ど経験のないことをすることになる受験生の方も大変だし、試験をする方も、野外に連れ出すので天気に一喜一憂したり、交通事故や露頭での事故に巻き込まれないようにとかなりの苦労である。実施する時期が十月頃で、昨年は、台風の直撃にあい三日間の予定を二日間に縮小せざるをえない事態も起きた。通常の大学入試という机の上で、必死に解答用紙に書きまくることに比べたらひどく悠長にも見えるが、入学して実際に自然から何かを学ぶという野外に行くことの意味と、自然を楽しむという人間が備えた本来の姿を通して自分の将来が決まるなんて実にすばらしい入試であると思う。入学者が、そのように育ってくれたかは、個々に違いがあり完璧であろうはずはないが、それも自然である。

無題
数学科 望月正貴
卒業後、運良く教員採用試験に合格し、高校の数学教員となった。元々は旧清水市の出身だが、最初に赴任したのは静岡県西の端にある湖西市で、アパートに一人暮らしを始めた。ここは浜名湖、遠州灘の魚介類がとても美味しく、大いに飲んで大いに太った。
結婚し子供も授かり、一昨年の四月から勤務先が富士市になったが、驚いたことにこの教科主任は大学時代の同級生であった。彼が採用試験に合格していたことは知っておりいざ同じ学校に勤めることもあるかもしれないとは思っていたが、こんなに早くしかも数学がたつた四人の高校で出会うとは何という偶然であろう。彼は昔と変わらぬ優しい笑顔で私を迎えてくれた。歓迎の席がまるで同窓会の様で、他の先生方には少々申し訳ないとも思ったが昔話に花が咲いた。学生時代もノートを借りたり世話になったが今も変わらず

急情な自分に反省し、変わるぬ友情に厚く感謝している。
第二十七回卒
小さな幸せ
化学科 堀部英基
私は学生時代、有機化学講座の櫻井厚先生の研究室で三年間お世話になりました。研究テーマは、「(ヒト尿に含まれる黄色微量色素)ウロチオンの立体構造の解明について」でした。立体構造を解明した時の震えるような感激は今も忘れることができません。就職してから研究から離れ、来る日も来る日も実験に明け暮れていた学生時代が懐かしいです。
静岡は眼下に駿河湾が見え、遠く山並には、南アルプスの赤石岳、聖岳が見え

同窓生の窓

好きな土地でした。そのせいもあって、結婚して、海のある茅ヶ崎に住まいを決めました。今、二月に五歳になった娘がいます。私に似て、クラスでは一番小柄なのですが、それでも着実に成長し、やっと一〇〇cmを越えました。「お祝いには何が欲しい?」と尋ねると、「お花が欲しい。」と言つので、好きな花を選ばせると、トキワザクラというピンクの可愛い花を選びました。
波瀾万丈ではなくても、家族との団欒や読書に小さな幸せを感じ、それを生きる喜びとしながら過ごす今日この頃です。
第二十二回卒
裏山の記憶
生物学科 福井順治
昨年(平成十六年)春、静岡県の野生動物植物の保護対策の基礎資料となる、「静岡県版のレッドデータブック」が出版されました。私はこの事業では、平成九年以来「自然環境調査委員会」の昆虫部の部会員として、トンボ類の生息状況調査で県内各地を回るとともに、絶滅の恐れのある種

事務局だより

の選定作業を進めてきました。三十数年前の学生のころ、私は大学のキャンパスのある日本平の丘陵を「裏山」と称していて、昆虫や植物を調べることで身近な生物に親しみ自然史研究の道に入りました。その後、現在までに静岡県で記録されたトンボ類はちょうど一〇〇種となりますが、今ではその中の多くの種がレッドリストに記載されることになり県内から姿を消そうとしています。時折、原点となった「裏山」の自然をなつかしく思い出しながら、当時は無名だった現在のトンボ類保護の最後の砦となった磐田市の桶ヶ谷沼で環境保全の活動を続けています。
第四回卒

と、大学入学後の教育が極度に困難になるようです。良質の学生を集め、工夫に工夫をかさねた教え方で教育し、可能性のある人間に育て上げて送り出す。大変そう……。
良質の学生集めには、教官の学問実績も大切ですが、最も大切なのは、「自分のやりたいことができる大学を選んで受験せよ。特に理系は、学部だけでなく、大学院のことも考えて大学を選べ。」というのが、高等学校での進学指導ですから。
静岡大学では、卒業生の実績データベースの作成・卒業生のメールアドレスの収集・在校生に対する各種支援講義・その他色々、同窓生からの支援を期待しているようです。まだまだ若い理学部同窓会ですが、出来る範囲で協力していくつもりです。
静岡大学理学部のホームページの中に理学部同窓会のホームページができています。
http://www.shizuoka.ac.jp/~rigaku/alumni/index.html
一度、こちらになつてく

だ。まず、受験生を集めることが大切になっていきます。実質倍率が二倍を切る
大学受験人口の減少に伴い、まず、受験生を集めることが大切になっていきます。実質倍率が二倍を切る
野口和広
e-mail: nkhmana@mxj.mesh.ne.jp